

出前授業を港区の小学校にて実施
～海運や船員の仕事について紹介～

当協会は日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を学校教育において取り上げていただくよう、商船や海事施設等の見学会、授業への協力や動画コンテンツの制作等に取り組んでおります。

10月17日（火）、当協会は日本船長協会と協力し、東京都港区立筈小学校の5年生を対象に、海運や船員の仕事について出前授業を行いましたのでその模様をお知らせします。同校での出前授業は2021年より実施しており、今回で3回目となります。

出前授業は2部構成で行い、前半は当協会から海運全般のことを、後半は日本船長協会から船や船員について話をしました。

前半では、日本の貿易量のうち海運が占める割合をクイズも交えて紹介し、船がなくなったら日常生活がどうなるかなどを説明、海運の重要性を伝えました。



また、海上輸送手段の一つとして、街中でよく目にするコンテナを題材に説明。児童にコンテナ型の模型を配布し、中に入れた消しゴム（サッカーボール/フライドポテト）をヒントにドライコンテナとリーファーコンテナの違いを考えてもらうとともに、運ぶものに応じて様々な特徴のコンテナがあり、身の回りのほとんどのものをコンテナ船が運んでいることを説明しました。



その後、白地図を配布し、児童にフライドポテト（アメリカ産）がどのような航路で日本に運ばれてくるのかを実際に書き込んでもらい、正解の航路を紹介するとともに、パナマ運河の仕組みや役割をアニメーションも交え解説しました。

また、Marine Trafficのサイトを紹介し、東京港や世界では多くの船が荷物を運ぶために活躍していることを伝えました。





後半は、前半に資料を配るなどお手伝いをしていた日本船長協会の船長がスーツ姿から制服に着替え登場し、拍手で迎えられました。

船長からは、船の大きさや船を動かすために必要な計器や設備、航海士・機関士の仕事内容や勤務体系、そして国籍など多様な背景をもつ人が一緒に役割分担をして働いていること等について、自身の経験も交えながら説明しました。

また、船内での過ごし方について、運動器具やゲーム等の娯楽も充実していること、普段は目にできない絶景や多くの海洋生物を見られること、船内の Wi-Fi 環境で陸と連絡も取れること等を紹介。児童は興味深く聞いており、商船のエンジンやプロペラの大きさ、航行中に撮影された大きなカジキやイカ、特別な日に船上で供されるご馳走などの写真に驚いていました。

授業の最後には仕事の体験の一環としてロープワーク教室を行い、児童は二人一組で楽しく取り組んでいました。



最後の質疑応答では、児童から船長に「これまで乗ったなかで一番好きな船は何ですか」「商船の速さはどのくらいですか」といった質問があり、世界中の様々な国へ寄港した際に乗船していたコンテナ船が一番好きなことや、昨今は環境のために減速航行をする傾向があること等、自身の経験や最近の企業の環境対応の状況も交えた回答があり、児童だけでなく授業の様子を参観している保護者も真剣に耳を傾けていました。

当協会は引き続き、海運の重要性を広く知っていただくための活動を展開してまいります。

以上